

平成 2 7 年度

宇治市小中一貫教育についてのアンケート

報告書概要版



宇治市教育の日シンボルキャラクター：ハチャ君

平成 2 8 年 1 月

宇治市教育委員会

実施概要

1 目的

小中一貫教育をはじめとした本市学校教育の推進及び今後の教育施策の参考に資するため、学校教育に関する児童・生徒、保護者の意識や意向、学校の状況などについて把握するとともに、これまでの調査の結果をもとに経年比較を行う。

2 対象

- (1) 宇治市立全小学校 第5～6学年の各学年1クラスの児童と保護者
- (2) 宇治市立全中学校 第1～3学年の各学年1クラスの生徒と保護者
- (3) 宇治市立全小・中学校（小学校22校、中学校10校）

回答数	児童・生徒	計	2,189名
	保護者	計	1,758名
	学校	計	32校

3 実施時期

平成27年6月18日（木）～ 7月6日（月）

4 設問項目

- (1) 小中一貫教育のねらい・取組について [7項目]
(児童・生徒、保護者、学校)
- (2) 小中一貫教育への意識について [3項目]
(児童・生徒、保護者、学校)
- (3) 中学校入学に係る心配や不安・悩みについて [8項目]
(小学校6年児童、中学校1年生徒)

結果

1 ねらい・取組、意識について

設問「授業はそれまでに習ったことや中学校で（これから）習うことにふれて進められていると思う。」に対して、児童・生徒が「そう思う」、「だいたいそう思う」と回答（以下、「肯定的回答」という）した割合は81%と、多くの児童・生徒が小・中学校9年間を見通した「系統的・継続的学習指導」を実感していることがうかがえます。

同じく「児童・生徒交流」、「教科担当制」（小中教科連携教員）についても児童・生徒、保護者の評価はそれぞれ高いものです。

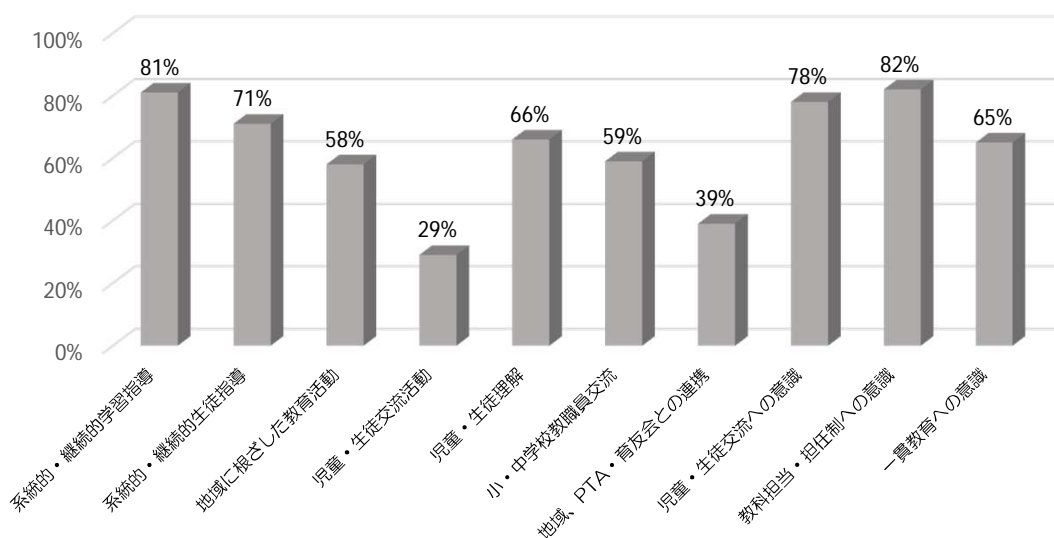
経年比較では児童・生徒ではほぼ全ての設問、学年で「肯定的回答」の割合は増加しており、特に中学校での増加傾向が顕著になっています。

これらの点から、小・中学校のなめらかな接続を目指した取組が着実に成果を上げていると考えます。

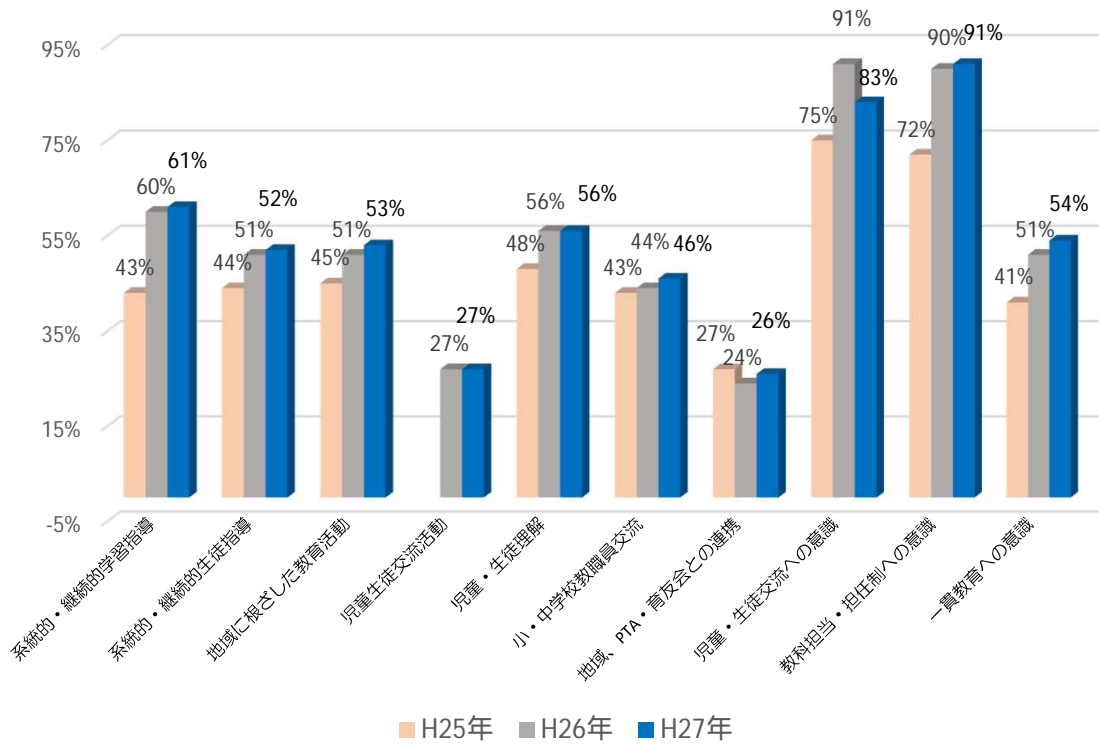
これまで課題とされてきた、小中一貫教育の取組に対する保護者の理解については、児童・生徒と比較すると「肯定的回答」の割合は総じて低いものの、経年比較では、ほぼ全ての設問で「肯定的回答」の割合は増加しており、保護者の理解は確実に深まりつつあることがうかがえます。

今後も地域社会・保護者との相互連携の取組をさらに充実させることにより、保護者の小中一貫教育の取組に対する理解をさらに深めていく必要があると考えます。

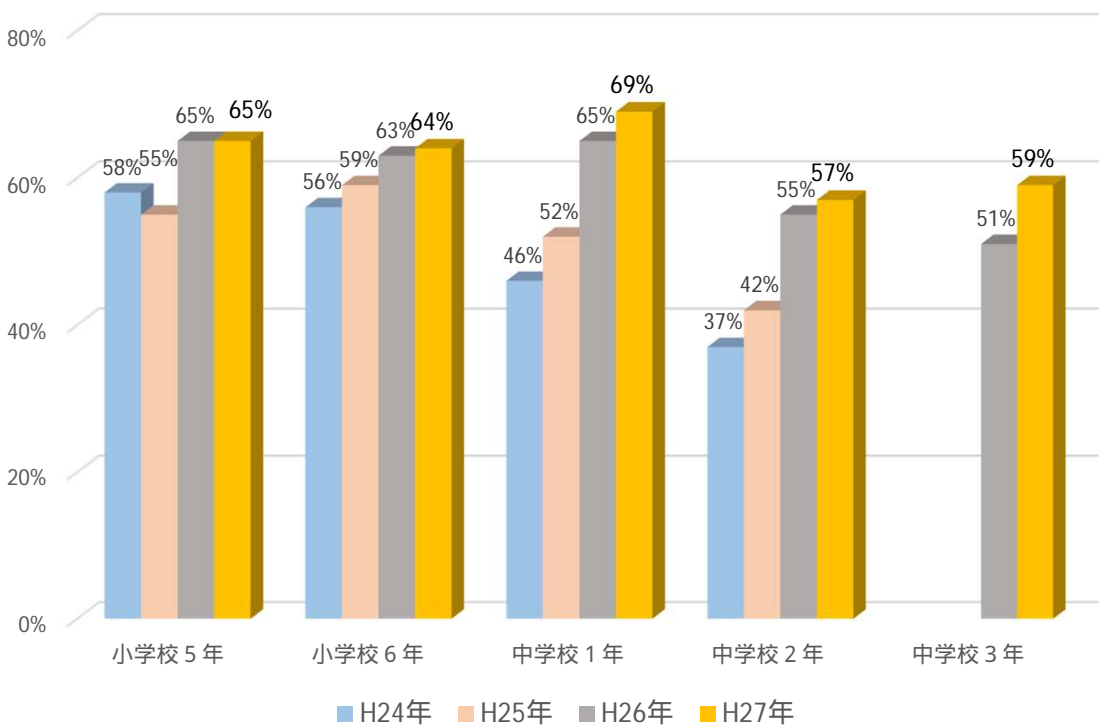
児童・生徒 「それぞれの取組を実感したり、評価している割合」



保護者 「それぞれの取組を実感したり、評価している割合の経年比較」



児童・生徒「それぞれの取組を実感したり、評価している回答割合の学年別経年比較」



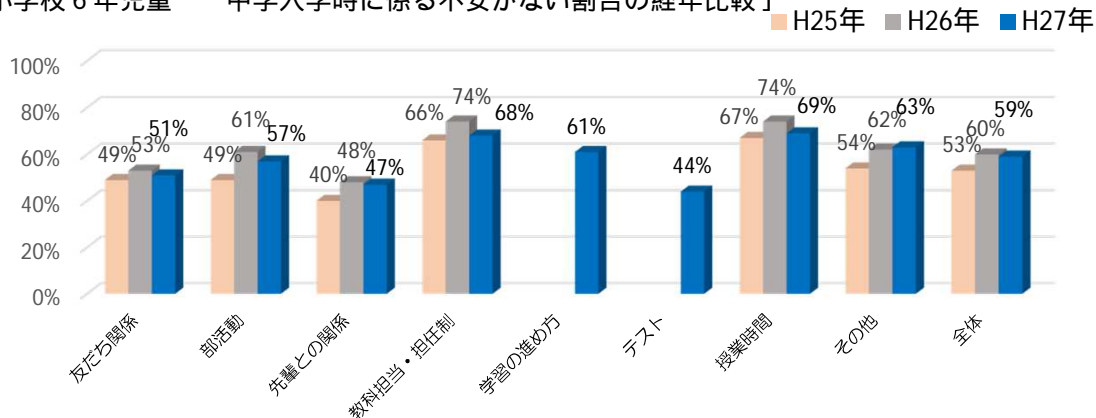
2 中学校入学に係る心配や不安・悩みについて

「中学校での部活動について心配や不安に思う。」の設問に対して、小学校6年生児童の「そう思わない」「あまり思わない」（以下、「不安や悩みがない」という）と回答した割合は平成25年度49%、平成26年度61%、平成27年度57%になっています。

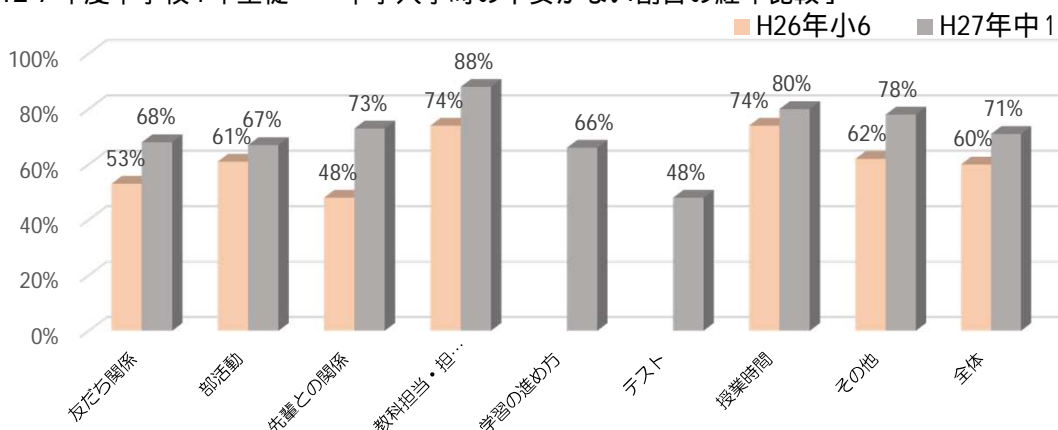
平成27年度中学校1年生と平成26年度小学校6年生の同一児童・生徒集団の比較で見ると、比較できる設問全てで「不安や悩みがない」と回答した割合は増加しています。

昨年度、不安と思う児童生徒が多かった「学習の進め方やテスト」については、質問の中身が複合しているとの指摘もあり、今年度は「学習の進め方」と「テスト」の二つの項目に分けました。結果「テスト」への不安と回答したものが、小学校6年生、中学校1年生とも他の項目に比べ多くなっています。小学校での単元末でのテスト、中学校での定期テストという実施形態について、児童の不安を解消する取組も必要になると考えられます。

小学校6年児童 「中学入学時に係る不安がない割合の経年比較」



H27年度中学校1年生 「中学入学時の不安がない割合の経年比較」



…不安や悩みがない割合

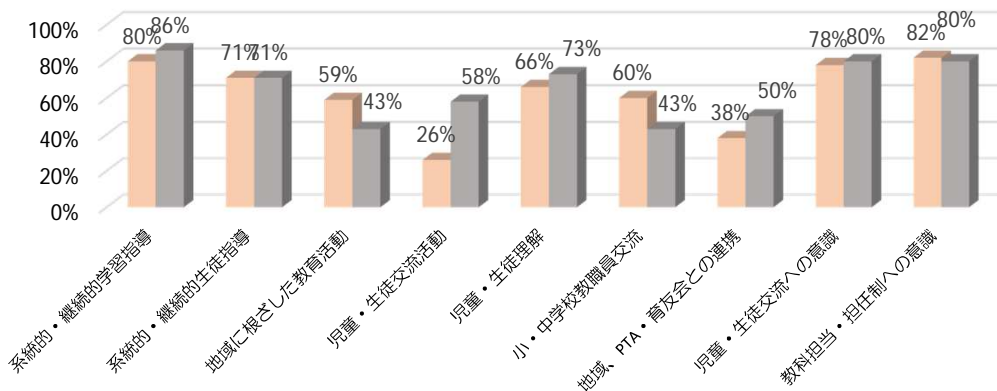
3 施設や分散進学状況における比較について

(1) 施設について

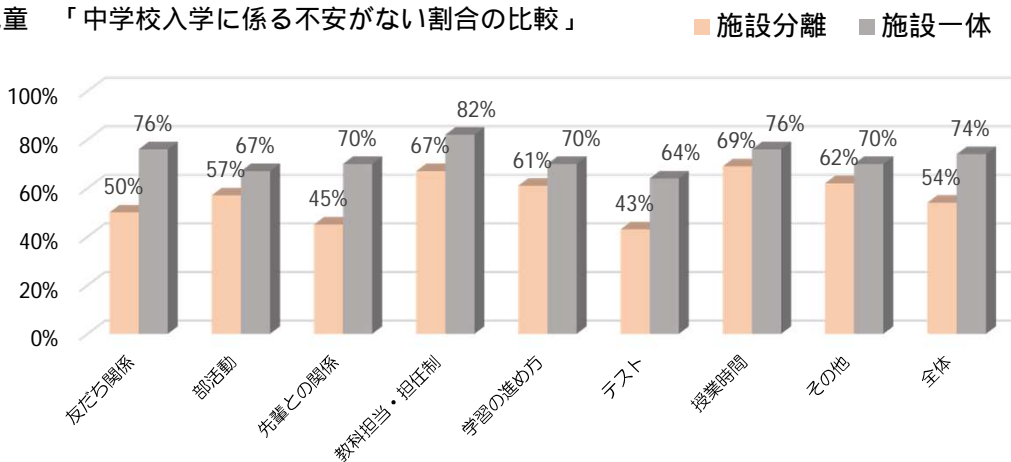
「児童・生徒交流活動」についての設問に対して、施設一体型小中一貫校（以下、一体型という）の児童・生徒の「肯定的回答」の割合は58%ですが、施設分離型小中一貫教育校（以下、分離型という）の児童・生徒では26%と顕著な差が現れています。保護者に対する「小学生と中学生との交流が多く行われていると思う。」の設問に対して、一体型の「肯定的回答」の割合は78%ですが、分離型では22%にとどまっています。

「先輩との関係」についての設問に対して、一体型の小学校6年生が「不安や悩みがない」と回答した割合は70%ですが、分離型の児童では45%にとどまっています。同様に「友だち関係」「部活動」の設問に対しても一体型の小学校6年生が「不安や悩みがない」と回答した割合は、分離型と比較して高くなっています。

児童・生徒 「ねらい・取組」「意識」の肯定的回答割合



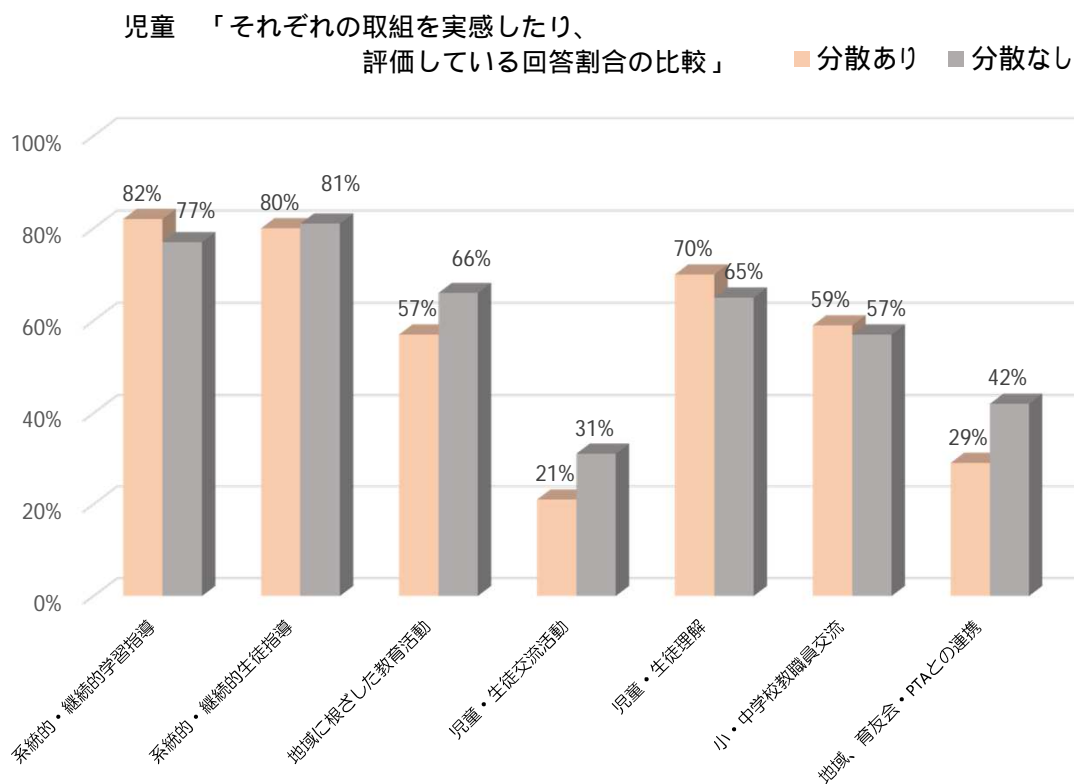
児童 「中学校入学に係る不安がない割合の比較」



(2) 分散進学について

「児童・生徒交流の意識」についての設問に対して、分散進学がない学校の児童の「肯定的回答」の割合は31%ですが、分散進学校児童は21%にとどまっています。「地域、PTA・育友会との連携」の児童・生徒、保護者に対する設問においても、分散進学がない学校の「肯定的回答」の割合は分散進学校と比較して高くなっています。

分散進学における比較では、「系統的・継続的学習指導」を始めとした児童・生徒への指導面においての差は見られないものの、具体的な取組である「児童・生徒交流」や「地域、PTA・育友会との連携」において差が現れているといえます。



まとめ

小・中学校のなめらかな接続を目指した取組が
着実に成果を上げている。

小中一貫教育の取組に対する保護者の理解は着実に深まりつつある。

小・中学校9年間を見通した
「系統的・継続的学習指導」についての取組を継続する。
さらに「定期テストに対する児童の不安」に視点をあてた取組を検討する必要がある。

施設一体型小中一貫校では分離型小中一貫教育校に比べて
中学校入学に係る人間関係についての不安や悩みは少ない傾向にある。

分散進学校と分散進学がない学校では、
「児童・生徒交流」「地域、PTA・育友会との連携」について
の差が見られる。

アンケート比較の経年比較では、「肯定的回答」の割合は、
中学生の増加傾向が顕著である。